

十一月の法座・行事

四日・達如上人御祥月御命日
（午前八時）

十一日・同朋の会例会（午後二時）
大阪教区第七組
長教寺住職 稲垣 洋信 師

十二日・闍如上人御建夜・常永代経
（午後二時）

十三日・闍如上人御命日（午前八時）

二十四日・顕如上人御祥月御命日
（午前八時）

・正信偈書写の会（午前十時）

・定例法話（午後一時半）
大阪教区第十二組
唯稱寺住職 麻生 英城 師

二十七日・宗祖聖人御祥月御建夜
（午後二時）

二十八日・宗祖聖人御祥月御命日
・晨朝（午前八時）
・日中（午前十時）

◆ご協力ありがとうございました

大阪府北部地震・西日本豪雨義援金

平成 30 年 6 月 18 日に起きた大阪府北部を震源とする最大震度 6 弱の地震では大阪北部を中心に、また同じく 7 月の豪雨では西日本を中心に甚大な被害が出ました。

この度、天満別院では災害で被災された方々を支援するため、7 月下旬から 10 月上旬まで天満別院本堂、墓地事務所にて義援金箱を設置しておりました。

集まりました義援金総額 55,380 円は 10 月 23 日に窓口にあたる大阪教務所に持参いたしました。義援金額の半分ずつを各々の災害義援金とさせていただきます。ことを報告いたしますとともに、皆様のご支援に厚くお礼申し上げます。

今月の天満別院伝道掲示板

私どもの生活は

恩をうくる生活

であると同時に

恩に報ゆる

生活である

編集後記

10 月 3 ～ 5 日にかけて報恩講が厳修されました。天満別院では門首後継者の御参修を機縁に帰敬式が執行されました。多くの方が受式されていること、その場に立ち会わせていただいていることに有難さを感じさせていただきました。法名をいただいた日は大切な記念日であると御輪番がおっしゃっていました。その後すぐに自身の法名をいただいた日を再確認した今日この頃であります。

堀河

霊園・墓石



株式会社 太田石材店

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市 1 丁目 23 番 20 号
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋 1 丁目 2 番 18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

六字城

発行 真宗大谷派（東本願寺）天満別院

大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五―一三五三五
代表者 輪 番 武宮 信勝

『和讃のおはなし』

真宗大谷派 鍵役

宣心院 大谷 暢文

『勢至讃（四）』

超日月光この身には

念仏三昧おしえしむ

十方の如来は衆生を

一子のごとく憐念す

（阿弥陀さまの応身であられる超日月光仏は、勢至菩薩に念仏三昧をお教えになりました。それはまさに十方の如来さまが、衆生を一人子のように憐れんでくださるかのようです。）

『首楞嚴經』には、「彼の仏、我に念仏三昧を教えん」と、勢至菩薩のお言葉として記されています。それによつてこのご和讃が作られています。『首

楞嚴經』でいう「彼の仏」は、超日月光仏のことですが、超日月光仏は阿弥陀如来の応身です。応身とは、私たち衆生の力量に合わせて理解しやすいような姿で現れてくださった仏のお姿です。阿弥陀さまを超日月光と言い換えることによって、私たちは阿弥陀さまの教えが、昼夜関係なく、太陽や月のように私たちを照らして下さることをはつきりと理解することができます。

その教えがここで言う「念仏三昧」です。『首楞嚴經』で勢至菩薩が超日月光仏から教えていただいた念仏三昧は自力の観想念仏です。しかし親鸞聖人は、これを阿弥陀仏の本意に基づいて、第十八願のお念仏、つまり他力の称名念仏と捉えられます。親鸞聖人がなぜそのように捉えられたかというと、勢至菩薩だけの問題ならば、自力

の観想念仏だけで十分だったでしょうが、親鸞聖人も含め、私たち衆生の問題だとすれば、自力の観想念仏だけでは私たちは救われません。ですから親鸞聖人は、他力の称名念仏と捉えられたのです。そのことが三句目と四句目からうかがえます。

『首楞嚴經』では「十方の如来は衆生を憐念して母が子を憶うが如くす」とあるように、まさに母親が自分の子供を憶うように、仏というものは衆生のことを憶っているのです。子供が反発しようが逃げようが、母親は子供を見捨てることはなく、自分の命さえ顧みず救おうとするものです。『首楞嚴經』では「十方の如来」とされていますが、親鸞聖人は、これを阿弥陀仏一仏に集約していただかれたのでしょうか。



◆正信偈と一緒に読みましょう

天満別院では月忌参り、ご法事の際に正信偈を読ませていただいています。この度、天満別院としましてはご門徒の皆様と一緒に声を出して読むことの大切さを再確認し、お参りの際には一緒に読みましょうと声掛けさせていただきました。初めは声を出すことは恥ずかしいかもしれませんが、皆様と一緒に勤めができたらと思っております。お参り際には職員が赤本を持参して参りますので、一緒に声を出して拝読しましょう。

輪番雑感

報恩講を通して
——「信心決定」——

輪番 武宮 信勝

天満別院での報恩講、門首後継者大谷暢裕ご夫妻御参修の基で円成しました。数多のお寺（法中）さん・坊主さん・ご門徒さんが声明・聞法を通して阿彌陀如来のご恩の深きことを知らせられ、お浄土のお莊嚴をいただきました。皆さん方に出遇えた慶びを今しみじみと思い起こしています。過日別院職員での反省会議をいたしました。

- ・沢山の人が出入りされるので気配り、目配りに翻弄したが、事前の打ち合わせ通りにならないことが多かった。
- ・帰敬式受式者（30名）の方々は、ご高齢に拘らず法要・帰敬式・ご法話と長時間の間（4時間余）身を置いてくださったことに感動した。
- ・初めて推進員の方に法要前に司会をしていただき、新鮮さがあって良かった。本人からは、専門的な言葉が多く、理解に苦慮しつつ躊躇することが多かったとか。その他、諸々挙がったことですが、職員一丸となって報恩講に对应してくれたことに感謝したい。ただ一つ報恩講が一人の念仏者の新たな誕生の場であったかどうかを省みるとが大切だと思います。

その意味で今度の帰敬式には重さを感じます。真宗の生活が新たにスタートした念仏者

誕生の産声が「誓いのことば」に表現されました。一日一日の始まりと終わりを大切に過ごす（朝・夕お内仏に合掌・礼拝する）ことがどんなに大切なことなのか阿彌陀仏の御前で誓われたのです。別院のお朝事（晨朝）にはほぼ毎朝欠かさず参詣されるあるご夫婦は、子どもたちの見守る中で、二人揃って帰敬式を受けられました。「今は額に飾られた法名に押し出されて別院にきてます。」と笑顔で語られました。

聖人一流の御勸化のおもむきは、
信心をもって本とせられ候

『御文』蓮如上人

当流には、信心のかたをもつてさきとせられたる、そのゆえをしらずはいたすらことなり。……他力の信心をとるといふも、別のことにはあらず。「南無阿彌陀仏」の六の字のころをよくしりたるをもって、信心決定すとはいうなり。

『御文』蓮如上人

信心の生活が、後生の一大事と言われる蓮如上人御勸化の思召しをいただくとき、報恩講は、特別の仏事に止まるのではなく、一年を、いや一生を通して、南無阿彌陀仏の六の字のころをうけとめ、如来から信心決定され、報恩謝徳につとめ続けていくことが真宗門徒のしるしであります。せつかく人となりて、この世に誕生したのだから……。



ご法話は三日間にわたり、大阪教区第十二組清澤寺前住職澤田秀丸師に「称名」「帰敬式」の意義等ご法話いただきました。



帰敬式



帰敬式「誓いの言葉」



おみがき



ちいちの華 立華

報恩講を迎えるにあたり、例年ご門徒の皆様には各部屋のお掃除や仏具のおみがき、のぼり旗、紫幕設置等のお手伝いをお願いしておりますが、今年度に限っては台風24号の影響により急に日程が変更になったにも関わらず、多くのご門徒様にお手伝いいただき、ありがとうございました。また報恩講中も法中、准堂衆の方々、各組の坊主様、ご門徒の皆様におかれましては忙しい中にご協力いただきましたこと重ねてお礼申し上げます。

皆様方のご協力のおかげがあつて無事に報恩講が厳修されました。来年の報恩講にむかつて新たな気持ちでいっしょにご一緒に聞法に奉仕に勤めてまいりましょう。